



# 木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年5月8日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般：4名

指導員：7名

## テーマ 夏鳥を探そう

野鳥の繁殖の季節で5月10日からは愛鳥週間(バードウィーク)が始まります。そこで、今回のテーマは鳥です。

堤防に向かう途中、マスクを外すと新緑のクスノキの花から漂う爽やかな柑橘系の香りに気づきます。

風が強く、木の葉のざわめきで鳥の声は聞きづらいかと思いましたが、川原ではヒバリが空高く囀り、ヨシ原ではウグイスとオオヨシキリの囀りが流れてきました。キビタキ、センダイムシクイなどの夏鳥の声は聞かれませんでした。シジュウカラ、キジ、コジュケイなどの声を楽しめました。

植物では、堤防でカナビキソウの大きな株を見つけました。ジャクダン科の半寄生の草本で、堤防に多いメドハギなどが宿主ということです。光合成に依存しなくてよいからか、全体が灰緑色でした。

この時期、堤防付近では外来植物が多く見られます。一番目立つのは黄色の大きな花を揺らしているオオキンケイギクです。この植物はかつて建設省(現在は国土交通省)が近くの笠田広場を花の名所にしようと播種して育てていたものです。その後、特定外来植物に指定されましたが、さすが繁殖力が強くて根絶できずに随所で花を咲かせています。大野極楽寺公園北側の堤防では、毎年の草刈りでこのところ減少していたヒサウチソウが今年は復活しつつあるようです。傍には近い仲間のヤセウツボも見られました。また、コメツブツメクサやもう少し花が大きなクスタマツメクサ、またよく似たコメツブウマゴヤシなども咲いていました。3種の違いをじっくり観察しました。

先月まで見られた川原にあったキツネの巣穴は、まだまだ碎石でしっかり埋められていました。草が繁ればまたキツネが巣穴を掘ることでしょう。いつまでイタチごっこは続くのでしょうか。(報告：齋竹)

＜その他観察できたもの＞

鳥：ツバメ、キジバト、ドバト、ムクドリ、カワラヒワ、ヒヨドリ、コゲラ、スズメ、ハシブトガラス

昆虫：モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ナミアゲハ、クロアゲハ、ツマグロヒョウモン、カタテハ、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、コチャバネセセリ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ、ハラビロトンボ、コアオハナムグリ、ホソヘリカメムシ、ヘラクヌギカメムシ、セイヨウミツバチ、クマバチ、ツチイナゴ

花：ヒメブタナ、ブタナ、コウリリナ、ハルジオン、セイヨウタンポポ、ニガナ、キツネアザミ、ノアザミ、シロツメクサ、ナヨクサフジ、ツルマンネングサ、シロバナマンテマ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、セッカニワゼキショウ、オオカワヂシャ、コマツヨイグサ、ミナトマツヨイグサ、ユウゲショウ、ツボミオオバコ、ヘラオオバコ、オッタチカタバミ、ヒナギキョウ、ノミノツツリ、ハクウンボク、エゴノキ、ノイバラ、ガマズミ、トチノキ

実：ミヤマウグイスカグラ



(南派川のヨシ原でオオヨシキリを観察中)



よく目立つオオキンケイギク



復活? ヒサウチソウ



灰緑色のカナビキソウ



埋められたキツネの巣穴